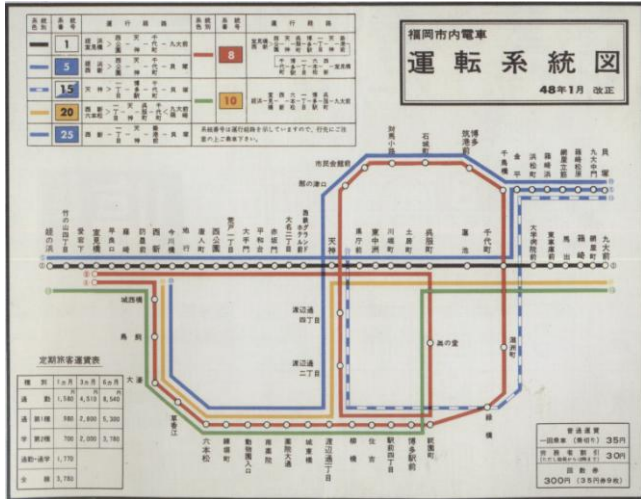


思いでのチンチン電車～城南線



昭和48年の路線図 一回運賃35円

旧制福岡高等学校が創立されたのは1921(大正10)年、その6年後の1927(昭和2)年、博多電気軌道が城南線を開業した。「渡辺通一丁目」と「西新」を東西に結ぶこの路線は、旧制福高・新制九大に通う学生たちの交通手段として愛された。1975(昭和50)年に廃線されたものの、2005年に市営地下鉄七隈線が開通、薬院大通駅・桜坂駅・六本松駅などは昔の電停跡地と隣接している。

渡辺通一丁目で循環線とわかれた電車は城東橋で全国でも珍しい鉄道線(大車田線)との平面交差点を通る。薬院をぬけると、古小鳥(ふるこがらす、後の動物園入口)付近で市内線でも随一の急坂にかかり、電車はモーターのうなりを一段と高くして挑んでいた。電車道の鞍部には練堀町電停、坂を下るとそこは九大教養部のある学生の街・六本松。沿線が文教地区だったのも城南線の大きな特徴で、たくさんの学生の夢や希望を乗せて走っていた。

練堀町

大休山を切通しにして作られた電车道、アップダウンの激しい坂道の途中には練堀町電停が設けられている。未舗装の道路を砂塵もうもうと勾配を駆け上がってゆく。

今では周囲の山は削られ、高層マンション群が並ぶ。現在の桜坂である。



練堀町を出発して六本松へ(1975年)

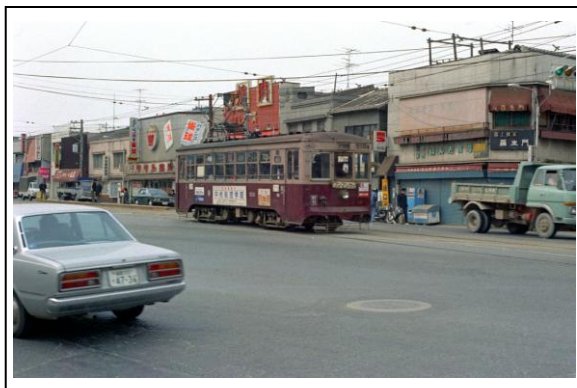


現在の風景(2008年)

奥が渡辺通り方面。練堀町電停は桜坂バス停となった。右写真の奥が桜坂バス停付近。

六本松

九大教養部(六本松キャンパス)ほど近くにある六本松電停。多くの学生で賑わったこの電停の跡地には、六本松バス停が立った。はつらつとした学生で賑わう風景は現在も変わらない。



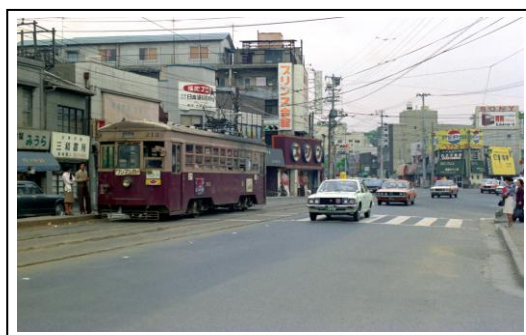
六本松電停付近(1975年)



六本松バス停(2008年)

左が草香江、右が練堀町方面。停留所は電車に隠れている。通りには雀荘・パチンコ屋・焼肉屋などが軒を連ねる。

六本松電停を出発し練堀町への上り坂(写真奥)に向かう。左の写真は1975年、右は2008年。写真左手に写る古書店「三和書房」は今も健在。



六本松電停付近(1975年)



現在の風景(2008年)

練堀町からの坂を下り六本松へと向かう。右手の茂みは九大教養部(六本松キャンパス)。



←練堀町 1975年 六本松→



←六本松三丁目バス停 2008年 六本松バス停→

草香江からのカーブを曲がって六本松へ向かう。左奥のビルは現在も残る。右手に写る米穀店(九大前米穀→福岡米穀→六本松米販)は今も変わらないが、横の旅館は駐車場へと変わってしまった。



↑草香江 1975年 六本松→



↑草香江バス停 2008年 六本松バス停→

草香江 ～大濠

六本松を出た電車は道なりに右カーブし、草香江電停へと向かう。草香江は草香江小学校そばの電停、その後電車は北上し大濠へと向かう。



大濠電停遠景 (1975年)



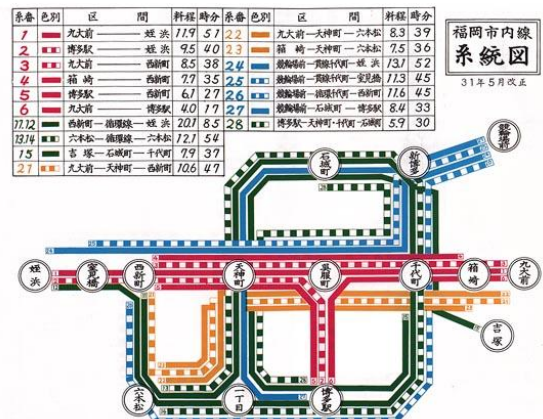
現在の風景 (2008年)

大濠電停を六本松方面に向かって撮影。写真奥には草香江電停が見える。交差点には当時の面影が残るものの、街路には高層マンションが立ち並ぶ。

資料編



電車の正面右に掲示していたホーロー製の系統板。10系統は九大前～呉服町～博多駅～渡辺通～一丁目～六本松～西新～姪浜。



昭和31年の系統図。全17系統にものぼる複雑な運行システムが存在した。競輪場前(貝塚)、新博多(千鳥橋)、天神町(天神)など懐かしい名がある。系統と共に距離と時間も示されている。